「切る」の科学的検証も

県歯科口腔外科協議会

第22回県歯科口腔外科協議会（大会長・栗原祐史松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座主任教授）が11月19日、松本歯科大学で開かれた。病院の歯科口腔外科などに勤務する歯科医師や歯科衛生士ら約60人が参加し、昭和大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科部門教授の代田達夫氏による特別講演「コンピュータ支援による顎矯正手術―安全で正確な手術を目指して」のほか、一般講演14題を聴いた。

熱心な質疑が交わされた

一般講演は「知的障害を有する口腔がん患者の1例」「口腔がんに対するペンブロリズマブ療法の検討」「耳下腺に生じたリンパ上皮性嚢胞の1例」など症例の発表が多かったが、信州口腔外科インプラントセンター（上高井郡小布施町）の北村豊氏は「"切る"を科学してみませんか」と題して発表。口腔外科の基本的手技である「切る」に焦点を当て、地球上で最も切れる物質は、刃の部分の分子が1列に並んでいる黒曜石であることや、外科用メスで組織を切ることの物理学的理論、押し切り（垂直ベクトル）と引き切り（水平ベクトル）を併用することでよく切れることなどを紹介して注目を集めた。このほか、コロナ禍での病院口腔外科の取り組みについての発表もあった。

栗原大会長はあいさつで「今回は多様な演題が集まった。活発に討議にしてほしい」と呼び掛けた。

（友田博文）